「JENESYS2.0」香港高校生訪日団第２陣
参加者の感想（抜粋）

【香港高校生の感想】

○　日本人は創造力が豊かで、科学技術の発展において優秀な成績を収め、特にロボット技術はトヨタ自動車工場など、日本の企業の生産分野で完璧に応用され、生産時間を大幅に削減すると共に、トヨタの自動車の質を大幅に向上させ、トヨタ自動車の名を世界に知らしめ、日本経済を益々発展させている。

日本人は大変礼儀正しく、実に礼節の国だ。中国は米国に次ぐ大国だが、国民の素質はいまひとつなので、中国の若者世代として、私達は日本の礼儀の文化をもっと広め、中国を本物の大国にするべきだ。

○　今回の交流で一番印象に残ったのは、高校での交流とホームステイだ。書道は中国の伝統文化だが、日本はその良さを余すところなく発揮させ、これを見て中国の青年にも文化を継承し広める責任があると感じた。茶道の体験でも見識が広まり、今回の活動で、日本人の少しも手を抜かない仕事に対する姿勢を目の当たりにし、主客の立場をわきまえた礼儀正しい心温まるおもてなしに感動した。短い１泊２日のホームステイで、日本人と友情を築き、青年による日中の良好な関係促進の道を切り開くことができた。

香港に帰ったら、香港の青年に日本の青年の礼儀正しさを広めたい。香港の青年は幼い頃から家族に甘やかされ、「香港っ子」等の現象が起きている。だから、香港の青年に日本の青年の自律、礼儀正しさ、勤勉などの良い品格を学び、自分自身の素質を高めると共に、文化交流で他国の文化の長所をよく学ぶよう勧めたい。

○　今回の旅行で一番印象に残ったのは和太鼓体験だ。これは春日井商業高校との交流での特別なイベントだった。太鼓は日本の伝統文化の一つで、アフリカ特有の楽器であるジャンベに似ている。私は文化が比較的好きなので、帰国後は主に日本の伝統文化について広めたい。

私は日本で伝統文化について見聞きしたことを、身近な家族や友人と共有するつもりだ。日本で撮った写真をインターネット上で共有し、自分の経験を全世界に伝え、全世界で日本で継承されている文化の美徳を学んで欲しい。

また、ホームステイ先の温かいおもてなしが深く印象に残っている。ホストファミリーとの触れ合いで、日本民族の特色、常に礼儀正しいもてなしが、とても心地良いものだと知った。香港に帰ったら、この精神についても伝えたい。

○　まず、一番印象深かったことは、間違いなく日本でのホームステイだ。日本の家庭と生活習慣を身を以って体験することができた。ホストファミリーは中国語も英語もできな

かったし、私も日本語が分からなかったが、意外にも人と人との関わりや感情は言葉に制限されることはなく、彼らのおもてなしの姿勢や親しみやすい表情に、だんだんと温もりを感じ、別れる時は名残惜しかった。この経験は本当に深く印象に残っている。

私が伝えたいのは、自分から心の窓を開けば、心の交流はいかなるものにも遮られることはないということだ。香港の若者は殻に閉じこもり、心から打ち解けられる友達が少ない。でも、実は誠心誠意付き合えば、国籍が違っても友達になれるのだ。

○　今回の訪問で一番印象に残ったのはトヨタの自動車組立工場の見学だ。見学の際、トヨタの発展の概況、トヨタが世界各地に進出し、自国の先進技術を海外に伝え、発展させていることを知った。香港に帰ったら、私もより多くの自国の産業を支援し、独自の技術を海外に伝えることに協力したい。また、見学の時、工場の労働者は少しも手を抜かずに働き、各工程は全てシステム化され、秩序正しく各工程を完成させ、最後に１台の自動車が完成することを見ることができた。実は、何事もこれと同様で、真剣に一つ一つ細部を完成させれば、完璧な製品ができるのだ。だから、私は香港に帰ったら、このことを身近な人々に伝え、努力しこつこつと物事を行うよう皆に勧めるつもりだ。

○　今回の訪問前に私が考えていた日本人は、常に威厳があって礼儀正しく、物事を行うにも日本独自の規則を守っていると思っていたが、今回の交流活動を経て、日本人が想像していたよりもっとオープンで、特に高校訪問の時、彼らが朗らかに温かくもてなしてくれ、思っていたほど重々しいものではなかった。例えば、学生たちは授業中、とても活発に討論し、私たちが置いてけぼりにならないよう、知っている限りの英単語で、できるだけ討論に加わらせてくれた。互いの共通の好みや話題が見つかれば、初めは物静かで遠慮深い日本の学生たちもあっという間におしゃべりになり、それまであった壁も全て崩れ、コミュニケーションの障害も消え、日本と香港の「シルクロード」が開通した。

また、同じく驚いたことは、日本人も中国人と同じく、特に大切な日に贈り物で客をもてなす習慣があることだ。これは面子のためか真心からかは関係なく、この習慣は日本人にもよくあるようだ。日本人の「90 度のお辞儀」から、「ありがとうございます」という言葉にも、素晴らしい文化の継承が表れていて、人々の日常の言動に徐々に広がり、社会全体が高尚かつ文化的雰囲気で満たされ、現在の中国や香港と比べると実に全く別世界だ。

それぞれ国の文化には長所もあれば短所もあり、全てをまねる必要はないが、互いに補い合い、郷に入らば郷に従えで、現地の人々を敬い尊重することで、国と国との友情が仲睦まじく長続きするよう効果的に促すことができる。このような文化は仮に完全に保存したとしても、科学技術の新しい流れにより、知らず知らずのうちに埋もれ、その精神も薄れていくだろう。日本科学未来館とトヨタ自動車工場の見学から、それぞれの国の既存の文化の差異は、グローバル化の下で小さくなり、最終的に１つになると予想できた。だから、今まだ残る精神と実物をしっかり大切にするか、或いは、より高い効果を狙って、そ

れらを新しい科学技術に取り入れ、日本と香港の将来の関係を促進させるべきだ。

○　東京外国語大学を訪問した際、東京外国語大学の学生受入規定やその他資料について知り、海外の大学に進学する利点が分かった。また、名古屋港防災センター見学では、地震と火災のシミュレーションを体験し、これまで地震を体験したことのなかった私も地震の威力を感じ、災害の被害について知ることができた。

【日本高校生の感想】

○　今回、私は初めてホームステイの受け入れをしました。兄が海外に行ってホームステイをした話を聞いて私もいつかやりたいと思っていたのでうれしかったです。初めて会ったお昼、英語力の高さに驚く一方で、自分の英語のできなさを感じさせられとても不安になりました。でも、私がわかりやすいように何度も違う言葉で言い換えてくれ、私もジェスチャーや絵を使いたくさんの会話をすることができました。お好み焼きを一緒に作ったり、お雛様を飾ったり、苺狩りに行ったり、たくさんの思い出ができました。一緒に過ごした中で彼女の気遣い、優しさに何度も助けられました。中でも私が母と次にどこへ行こうか迷っていたとき「あなたが連れて行ってくれるとこならそれは全て私のためにやってくれることだから全て嬉しいわ」という彼女の言葉が私の心を軽くさせてくれました。私もそんな言葉が言える素敵な女性になりたいと思いました。

今回、彼女と過ごす中で学んだことをこれからに生かしていきたいです。アドレスや住所を交換したのでこれからもこの交流が続けることができると思うと、とてもわくわくしています。そして、いつか香港に私が行けたらいいな、と思います。（愛知県２年女子）

○　私もホームステイをした経験があるので、不安なことは少なかったですが、どんな子かだけが心配でした。実際会ってみると、とても気持ちの良い子で１泊２日のわずかな時間でとても仲良くなることができました。

夜にはお互いの国のことを話しました。彼女は日本文化と私達家族を進んで受け入れようとしてくれました。そして、何でも「やってみたい」と言ってくれました。風呂に入ることも布団で寝ることもどれも私達の予想外のことで、彼女の姿勢にとても感心しました。彼女を見て、たとえ母国にいたとしても、いろいろな事に興味を持ち行動することが自分の可能性を広げることになると学びました。別れるときにはまるで家族が遠くへ行ってしまうように感じられ、涙が止まりませんでした。また会いたいです。（愛知県１年女子）

○　私は英語が苦手で、世の中では簡単といわれているような単語すら辞書がないとできないので、とにかく“話せるのか、コミュニケーションがとれるのか”ただそれだけが不安でした。なので、今回は携帯電話の翻訳アプリに本当にお世話になりました。時代の進化をここまで目の当りにしたのは初めてでした。しかし、すぐに伝えたいことや、ぼそっ

と言ったことは、文字に打たないと会話が成り立たないので、会話がひとつ終わるのに時間がかかります。自分が文字を打っている間、相手はそれを待っていないといけない、その時間がもったいなくて仕方なかったです。私が少しでも話せれば、この時間は本当はない時間なのに、と何回も思いました。しかし、香港の子と過ごした時間はとても充実していました。会話はぎこちなくても、伝わる何かがあるのだと思いました。別れるときはお互い涙を流していました。今度は私が香港へ行って香港を案内してもらいたいと思いました。

初めは不安しかなかったけれど、別れる時には、楽しさしかなくて自分でも 1 日でこんなに仲良くなれると思っていなかったので驚きました。ホームステイを受け入れてよかったです。今回、泊りに来た香港の子と色違いのカバンを持っていることが分かったときは、運命かなと思いました。今度会うときはもう少し英語を勉強しておくと約束したので、頑張って勉強したいと思います。(愛知県 3 年女子)

○　「今回の体験を通じて」

僕が今回ホームステイの受け入れを決めたのは、外国の人と交流して、自分が今まで習ってきた英語がどのくらい通じるのか試してみたかったからだ。最初は先生方も「日常会話ぐらいなら問題ない」と言っていたので、特に心配はしていなかった。しかし、実際に香港の学生の英語を聞いてみると、その流暢さにとても驚かされた。上手すぎて何て言っているかわからず、最初は何も考えずに「Yes」などと答えてしまっていた。その時は自分の英語力のなさに落ち込んでしまい、受け入れる前まであんなにはりきっていた自分を馬鹿に思うほどだった。しかし、しばらくすると、初めのときに比べるとだいぶ聞き取れていることを実感し、暗い場所にずっといると目が慣れてくるように、耳が彼の英語のスピードに慣れてきていると思った。それからは、最初の何にでも「Yes」と答えていたときと比べると、とても内容の濃い会話をすることができた。次の日は、事前に計画していた佐世保の名所や日本の文化を彼に体験してもらい、ともに楽しい時間を過ごすことができた。

一番印象に残っているのは、最後の見送りのときだ。バスに乗っている彼と最後の言葉を交わすと彼が涙を流した。その時に、僕は彼がこのホームステイを心から楽しんでくれていたことを改めて実感し、自分もうっすら涙目になった。

今回のホームステイを通して、英語を学ぶことにより、自分の世界がとても広がっていることをとても実感した。英語を使うことで今まで自分達と違う国に住んでいる人とでもコミュニケーションをとることができ、たった 2 日でも涙で別れるくらい深い関係を築くことができる。今ではホームステイの受け入れをしてとてもよかったと思っている。今回の経験は、一生忘れられないくらい貴重な思い出となって、これからの自分の将来にも必ずプラスになると思う。この交流をした学校に選ばれたことにとても感謝している。僕が彼と出会うことができたのは、本当にわずかの確率で、このような体験ができて本当に運がよかったと思っている。この体験をこれからの自分の将来に少しでも生かしていけたら

と思う。（長崎県１年男子）

○　「じかに接する」

今回の交流ではとても良い体験ができた。クラスでの交流では企画から準備、本番まで関わらせてもらった。正直、企画書を書け、とか○○を準備しとけとか言われて嫌だった。クラスをまとめるのも大変だった。しかし、僕たちが出し物をするたびに歓声があがるのを聞いて、あきらめずにここまでやってきてよかったと感じた。特に剣道の演武では一本あたるごとに香港の生徒たちが目を丸くして見てくれた。そして「質問はないですか」と聞くとたくさんの生徒が手を挙げてくれた。

また、我が家に来るはずだった生徒が体調を崩し来られなくなるというアクシデントがあった。彼が来るのを心待ちにしていた私はとても残念だった。その後、別の生徒が我が家に来ることになった。彼とは話したことがなく少し不安だった。しかし、彼はとても人懐っこく、思慮深い人で会ってすぐに打ちとけることができた。祖父母や母などの私の家族にも彼は礼儀正しく接していた。それから全員で弓張岳や烏帽子岳に行ったりして楽しい時間を過ごした。最後には１泊２日がとても短く感じられるほど充実した日々をおくることができた。別れの際には体調を崩して我が家に来られなかった生徒とも抱き合った。バスが出発するときには、あふれる涙をこらえることができなかった。たった１泊だったけれど私には彼が兄弟のように感じられた。

ただ１つ残念だったのが自分自身の英語力の低さだ。彼の言葉を理解してあげられなかった。そして自分の伝えたいことを伝えられなかった。このことが悔しくて悔しくてたまらない。いつの日には彼と再会するときのために英語の力をつけたい。

また今回の交流で最も強く感じたのは人と直に接することの大切さだ。正直、今回のことがある前は私は中国のことが嫌いだった。ニュースで流れる反日デモやネットでとびかう罵詈雑言ばかりを聞いてきたからだ。しかし、今回香港の生徒と交流してわかった。彼らは私たちと何も変わらない同じ１人の高校生だった。おそらく彼らも同じ思いだろう。私はこういう一人ひとりのつながりを大切にできる人間になりたい。　（長崎県１年男子）

○　「ホームステイを通して」

今回、初めてのホームステイを受け入れました。あまり、はじめは乗り気ではなかったのですが、彼女との１泊２日はとても充実したものになり、今は受け入れて本当によかったと思っています。不安だった英語でのコミュニケーションは、思ったよりも楽しく会話ができました。香港の高校生は、私たちよりも英語のレベルが高く、とても圧倒されましたが、片言ながらもさまざまな会話ができ、英会話の楽しさを改めて感じました。その会話の中で、自分の意思をまっすぐに英語で話す香港の高校生、特に彼女の姿にとても驚嘆し、中国に対する見方も変わりました。国を超えて、意見を交えることがとても新鮮で、お互いに思いが通じるのが素直にうれしかったです。英語をもっと学びたいと思いました。

1 泊 2 日だけでしたが、この短い時間は私にとってとても濃い、すばらしい時間でした。ホームステイでの経験を多くの人にしてほしいです。また、これからは今回のことを活かし、新たな発見や見解を積極的に見つけていきたいと思います。（長崎県 1 年女子）